

令和5年9月21日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）県立高等学校の在り方について

「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」の策定に当たっては、私立高等学校等も含めた県全体の高等学校の将来像や地域での学校の役割を踏まえた上で、慎重に議論を進めていくことが必要であると考えますが、県立高等学校が地域に果たす役割をどのように認識し、次期基本計画を策定していくつもりなのか、教育長に伺う。

（答）

県立高等学校の在り方の検討に当たりましては、地域のニーズや生徒・保護者の希望等に応えることができる学校、課程及び学科等を適正に配置するとともに、私立、市立及び国立高等学校と協力しあいながら、広島県全体の教育の質的水準の維持・向上を図ることが重要と考えております。

県立高等学校におきましては、「自分とは何か」、「生きるとは何か」といった問いから始まり、生徒の興味・関心に応じて実社会をフィールドとした主体的・対話的で深い学びを実践する教育活動等を通じて、都市部、山間部、島しょ部にかかわらず、県内全ての地域において、本県への愛着や誇りを育み、将来的に社会や地域に貢献できる人材を育成することなどの役割があると認識しております。

また、生徒の居住する地域にかかわらず、生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けられる教育を受ける機会を提供する必要があると考えております。

そのため、次期「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」の策定に当たりましては、教育の機会均等の確保、高等学校教育の質的水準の維持・向上、県立高等学校が地域で果たす役割など、様々な観点から、慎重に検討を進めているところでございます。

教育委員会といたしましては、引き続き、県議会の皆様をはじめ、関係者の皆様などのご意見を丁寧に向いながら、次期計画の策定の検討を進め、将来を見据え、全県的な視野に立って県立高等学校の更なる特色化・魅力化に向けて全力で取り組んでまいります。